

製品名: KIR5.1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab13032**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	48kDa

抗原情報

遺伝子名	KCNJ16
別名	KCNJ16; Inward rectifier potassium channel 16; Inward rectifier K(+) channel Kir5.1; Potassium channel; inwardly rectifying subfamily J member 16
遺伝子 ID	16517.0
SwissProt ID	Q9NPI9
免疫原	抗血清はマウス Kir5.1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 369-418

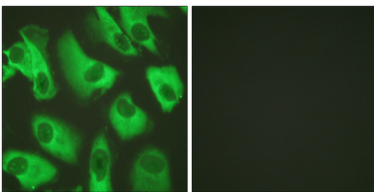
背景

カリウムチャンネルはほとんどの哺乳類細胞に存在し、様々な生理学的反応に関与しています。この遺伝子によってコードされるタン

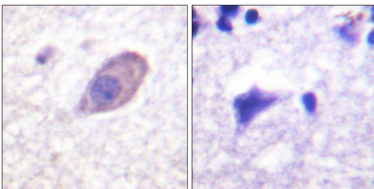
パク質は、膜貫通タンパク質であり、内向き整流型のカリウムチャンネルです。コードされるタンパク質は、カリウムを細胞外に流すよりも細胞内に流す傾向があり、他の2つの内向き整流型カリウムチャンネルとヘテロ二量体を形成できます。体液および pH バランスの調節に機能する可能性があります。この遺伝子には、選択的スプライシングを受けた転写バリエーションがみつかっています。[RefSeq 提供、2014年4月] 機能: 内向き整流型カリウムチャンネルは、カリウムを細胞外に流すよりも細胞内に流す傾向が強いのが特徴です。その電圧依存性は細胞外カリウム濃度によって制御され、細胞外カリウム濃度が上昇すると、チャンネル開口の電圧範囲はより正の電圧にシフトします。内向き整流は、主に細胞内のマグネシウムによる外向き電流の遮断によるものです。KCNJ16 は体液と pH バランスの調節に関与している可能性があります。類似性: 内向き整流型カリウムチャンネルファミリーに属します。サブユニット: Kir4.1/KCNJ10 または Kir2.1/KCNJ2 とヘテロ二量体を形成するようです。組織特異性: 腎臓、膵臓、甲状腺で高発現しています。、

研究分野

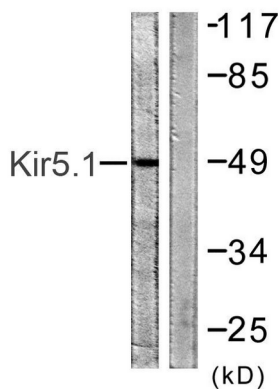
画像データ



Kir5.1 抗体を用いた HeLa 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



Kir5.1 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



Kir5.1 抗体を用いた HeLa 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。

KIR5.1 ポリクローナル抗体を用いた HeLa 細胞のウェスタンブロット解析

